

ガンコ親父の



「暑いし、雨は降らないし、もうゆで上がってしまいそうだな」と松次郎は縁側で額の汗を拭いた。「ほんとに、ゆでタコ」
 「みたいですね」と貴代は松次郎の赤い顔を見ながら頷いた。
 「余計なことは言わんでよい」「はい、はい」と貴代は笑いながら応えた。「はいは一回でよい」
 生け垣の向こうから、ウラのばあさんがニカッと笑みをよこした。先日、緑のカーテンの産物であるゴーヤーをあげたら、それ以来はあさんの機嫌がいい。「松っあはマンゴーみたいに血色がいいので、見てるだけで気持ち良くなる。性格もさっぱりしてるし、本当にいい男だ」と、妙に持ち上げる。今年も、ゴーヤーがなっている間は、「あんたのゴーヤーが日本一」と松次郎をいい気にさせてくれるだろう。やっぱり、ばあさんにはかなわない。

奄美黒糖焼酎

マンゴーみたいに、と言われた松次郎は子耳に挟んでいた話を思い出した。今年2年目になるらしいが、新しい取り組みの奄美マンゴー「太陽王」栽培も一番の品質を目指して頑張っているとか。素晴らしいではないか。

松次郎は「この努力をすることは苦手だったが、張り切る」とは誰にも負けなかった。年少の頃からあまり余計なことは考えずに、一直線に突っ走ることが好きだったのだ。松次郎は今でも「番」という二文字に恋している。いっぽう、松次郎の息子たちは小学校の運動会でかけっこに負けても、大人になってフィネンカー競漕で予選敗北してもあまり悔しがらなかった。どうして一番にならなくて面白いのだろうか。「案じめれば、まあそれでいいんだよ」と息子達の気がしれなかった。近年は職場の後輩達もそれに近い。松次郎が大切にしてきた価値観もなんだか軽くなってきたものだ。それが本当に悔しい。

常圧蒸留

孫の誕生を健康な身体で受け止めようと、松次郎は毎日欠かさずジョギングを続けている。走ることだけに限らないが、なんでも続けていると見えてくるものがある。走ることが案になってくるにつれ、心に芽生えて来るものがあった。目標の奄美観光桜マラソンで、「番」になれないだろうか。松次郎は大会の眩しい表彰式を夢見た。明朝からのジョギングがさらに楽しくなるに違いない。

昔ながらの手造り こだわり焼酎

高品質の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、本年の伝統を受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」蒸留焼酎の味を全国に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

貴代は酒屋さんで、いつも松次郎が飲んでいる「しまっちゅ伝蔵」の話題を聞いた。今年の春の全国酒類コンクールで、その焼酎が第一位をとったのだ。ナンバーワンが好きな松次郎のことだ。きつと喜ぶだろうと思っ、貴代は二本購入した。「当たり前だ、そんなこと。俺が一番美味しい酒しか飲まんと言ってるだろうが」と胸を張る松次郎の姿が頭に浮かんだ。「ナンバーワンは、いきなりやって来るものじゃない。一番になれるものは、やっぱり日頃から掲げているものが違うんだよ。まあ、お前らにはわからんだろうがな」とか、今夜の晩酌では言いそつだ。しかし、それもガンコ親父一家のことだ。本当は心の通じる「番」いい時間なのかもしれない。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)

2013年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2986番地12
0966(7)650251

2009年10月開催第11回「日本でも美しい村」選定に選ばれ、掲載されました。喜界島酒造は、この栄誉を誇りにしています。



the most beautiful villages in Japan

喜界町
KIJIMA

「一番」に乾杯!